

第3回当別町総合計画審議会要旨

- 1 日 時 令和元年11月26日(火) 10時00分から11時40分
- 2 場 所 当別町役場第2庁舎 2階会議室
- 3 出席委員 別添名簿のとおり
- 4 町出席者 事務局：江口部長、長谷川課長、石原係長、井田主任、寺田主事
- 5 傍聴者 4名
- 6 審議会要旨

(1) 会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本審議会は、新しい総合計画について、当別町の将来に資するような提案をさせていただくことを目的としております。第3回の審議会では、前回の審議会の皆様からいただいたご意見を組み込んだ新しい総合計画の案について、再度皆様からのご意見をいただき、パブリックコメント実施に向けた形のある計画案となるように議論を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(2) 議題

① 新しい当別町総合計画(案)について

資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づき、長谷川課長より説明。

(守山委員)

前回の素案から、計画策定の目的や目指すまちづくりが追加され、わかりやすくなったと思います。第5次総合計画には、最上位の計画であることや町民共通の指針であると明記した「計画の性格」という部分がありますが、新しい総合計画にはそういった表現がないため、町だけの計画であるかのように映ってしまう面もあると思います。趣旨や目的の中で、町民と共有しながら一緒に取り組んでいくことや、民間の力を借りながら取り組んでいくという表現を記載する必要があるのではないのでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおりそういった表現は明記しておりませんが、事務局としてはごく当たり前の部分であり、1ページで計画策定の目的を整理したことから、特段明記する必要はないと整理しておりました。意識醸成につながることで、どの部分にどのように明記すべきなのか整理いたします。

(黒澤会長)

町民の皆様のご理解を得た上で策定する計画であることを考慮して、最も適当な部分にそういった表現を明記していただければと思います。

(泉委員)

前回発言した内容が網羅されており、とても見やすくなったと思います。3点お話ししたいことがあります。1点目は、11月18日に当別町議会報告会で総合計画について意見交換を行いました。審議会委員が全員出席していたわけではないので、その時の内容を報告していただき、総合計画に反映していただければと思います。2点目は、農業人口の減少に対し、行政や農協は記載されているような取り組みを行っていると思いますが、農業を営んでいる町民が見た時に、これからどのような対策をするのか見えてこないと思います。どのような取り組みを行っていくのか詳しい説明をしていただきたい。3点目は、このまま子ども達が減少していくと町はどうなってしまうのだろうと危惧しております。子どもが少ないため、なくなってしまったクラブ活動もあると聞いております。子ども達を増やしていくことへの対策が見えてこないなので、詳しく説明していただきたい。

(事務局)

議会報告会にて意見交換をする場があるということは聞いておりましたが、どういった内容であったかはまだ頂戴しておりません。議員の皆様には、議員協議会を通じて総合計画のご説明をしており、議員の皆様からもご意見をいただくことになっておりますので、その際に併せて報告していただけると推測しております。次回の審議会で、議会からいただいたご意見とパブリックコメントのご意見を反映させた総合計画をご提示できるかと思います。農業人口の減少については、36ページの「農業10年ビジョン推進プロジェクト」の中で事業展開等を記載しております。より具体的な話は、農業関係の指針や計画であったり、各関係機関の中で整理され議論されていくものだと思っております。子ども達の減少については、出生数の減少に歯止めをかけることができなかつたと記載しているとおおり、一番頭を抱えている部分であります。解決するためには、様々な分野で対策をしなければいけないことになるため、1つのプロジェクトとして掲げておりません。例えば、農業の担い手不足に対する施策で子育て世帯が転入してくるということも考えられます。移住そのものの取り組みだけではなく、どこに住むのかということであれば都市開発に関する施策も関係してきますし、他にも公共交通の充実や学校教育の推進、子育て世帯を応援する施策も子ども達を増やすことにつながるのだと思っております。総合計画や総合戦略の施策が絡み合って人口減少対策につながるとご理解いただければと思います。

(川村委員)

農業人口の減少については、11月11日に町の農業関係団体が集まり、当別町農業総合支援センターという組織を立ち上げました。当面は、現状分析とアンケート調査に手を付けることとなりますが、最終的には総合的な農業振興に携わるということで、すべての農業団体で取り組むものとなっております。農業人口の減少や

担い手不足の解消、事業承継や新規就農者への様々な支援についても総合的に行う予定であります。

(泉委員)

人口減少対策や農業関係の施策について、読んでいてもわかりにくい部分があったため、町民全員がわかりやすいような表現で作成していただきたいということで発言させていただきました。ご説明ありがとうございました。

(後藤委員)

第5次総合計画の施策に対する評価や人口目標を下げた経緯を記載すべきだと思います。どういった経緯で人口目標を下げたのか、そもそも第5次総合計画ではどうなっていたのかがわからず、読み始めから疑問を抱いてしまうかと思います。

(事務局)

総合計画や総合戦略では、人口の下げ止まりを図り、さらにそこから人口増加につなげていきたいという目標を掲げておりました。しかし、残念ながら転入層が増えるなどの動きもなく、計画どおりに人口を推移させることは難しいという判断で人口目標を下げることにしました。今すぐに人口減少に歯止めをかけることができないであろうと想定し、5年以内に人口増加に転じるような施策を展開することで、2030年には今と同規模の16,000人まで回復させたいと考えております。

(後藤委員)

2030年に16,000人である根拠は何でしょうか。

(事務局)

インフラの維持や町内の活気を取り戻すためには、ピーク時の20,000人まで回復させることが最終目的であります。その目標を達成するために、2040年には18,000人、2030年には16,000人という逆算をし、各目標人口を設定しました。内部では、人口が減少するということを記載すべきだという意見もありましたが、下げるといった目標を掲げてしまうとさらにそれよりも下がるだろうという意向もありまして、この目標を掲げさせていただきました。そういった経過を総合計画に記載してしまうと、そこだけがクローズアップされてしまうと考えております。それよりも、どんな施策をするのかに注目していただきたいと思いますので、総合計画には記載せず、ホームページで公開するなど別の方策を検討いたします。

(後藤委員)

自分としては経緯や経過を明記した方がよいかと思います。また、交流人口の増加を目標に掲げておりますが、交流人口が増えたことによって具体的にまちがどのようによくなるのかを丁寧に記載した方がよいかと思います。最後に、4ページでSDGsについて触れられておりますが、施策とゴールを結びつけるなど、わかりやすく明記した方がよいかと思います。SDGsに関して、国から補助金を受けてまちづくりを推進している自治体もあり、町として推進していくのであれば、総合

計画に結び付けることで周知や対外的なアピールになるかと思えます。

(事務局)

交流人口が増加することによる効果については、おっしゃるとおり具体的なことが記載されていないため付記いたします。SDGsについては、まちづくりを推進していく上でごく当たり前であることが多く、特段その目標を付記する必要はないかと考えております。例えば、41ページの「新しいまちの顔づくりプロジェクト」では、SDGsという表現はありませんが、持続可能なまちづくりという意識した表現がある部分もあります。今後の町政運営にはSDGsを意識しなければならないと考えております。41、42ページの開発プロジェクトの中でさらに踏み込んだ記載が必要か検討いたしますが、ご希望に添えることができないかもしれません。また、具体的にどのように記載すべきかご意見ありましたら提案していただければと思います。

(黒澤会長)

SDGsについては、小学生の内から学んだり、いろんな企業が取り組みを始めております。どんな施策もいずれかの目標に当てはまるのではないかと思うので、後藤委員からの提案のように付記したり、17の目標を記載するだけでも意識しているとアピールできるかと思えます。

(泉亭委員)

公共交通の充実に関する記載について、人口の自然減を抑制する観点から、高齢者の方々がいつまでも安心して住んでいけるまちづくりを推進するためにデマンドバスの充実を図るといった、福祉の面でのバスの在り方や位置づけを検討し、総合計画の中に記載していただきたい。

(事務局)

当別町のコミュニティバスのスタートは、高齢化社会を意識しての取り組みであります。それが当たり前になってしまっており、活字に落とし込むことがもれていたと思います。高齢化社会が進展していく中で、より暮らしやすい環境を維持するためにバスの充実を図るということを明記したいと思えます。

(川村委員)

36ページの「農業10年ビジョン推進プロジェクト」について、今後の事業展開の中にある赤字以外の施策は農協、農業委員会の従来業務であります。今後、農業関係団体が一丸となって人と資源を使い取り組んでいくのであれば、当別町農業総合支援センター運営に関する記載の序列を上げていただきたい。また、この文言では新規就農者の確保・育成対策に限られているような印象を与えてしまうため、当別町農業総合支援センターの事務局と文言調整をしていただきたい。

② 新しい当別町総合計画（案）のパブリックコメント実施について

資料2に基づき、長谷川課長より説明

（事務局）

本日いただいたご意見を反映させる前の案でパブリックコメントを実施し、本日いただいたご意見は、パブリックコメントのご意見と合わせて修正し、次回の審議会でご提示いたします。また、審議会委員の皆様からも改めてご意見がありましたら、12月中旬を目途に提出していただければと思います。

（泉亭委員）

周知の方法はどのように考えているのでしょうか。広く町民の方に周知するとありますが、パブリックコメントを実施しても意見が出てこないことが多いかと思えます。町民の方から意見をたくさんいただけるような周知の工夫をしていただきたい。

（事務局）

周知の方法については、広報12月号に掲載しすべての世帯に周知を図るとともに、ホームページのトップ画面にある「まちの話題」に掲載することで、しっかりと周知を行います。また、各団体の代表である審議会委員の皆様からも、組織内で周知する機会がございましたら周知していただければと思います。

（後藤委員）

各町内会に1部ずつでも配布していただければ、周知できるのではないのでしょうか。

（事務局）

行政推進委員の皆様にも、内容を精査した新しい総合計画の案とパブリックコメントの実施要領とお知らせ文書を送付する予定となっております。

（黒澤会長）

町民の方にきちんと知らせることが大事だと思います。色んな方法や場所で周知していただければと思います。

(3) その他

日程調整表を12月10日までに提出していただきますようよろしくお願いいたします。

【当日の様子】

